

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100280		
法人名	社会福祉法人 一乗谷友愛会		
事業所名	グループホームあさくら 南新町		
所在地	福井県福井市下六条町18字37番		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和5年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は入居者様の最大の楽しみです。当事業所では、介護職員が献立を考えます。近くのスーパーに買い物に出かけ新鮮な食材で毎食手作りにて調理を行っています。米は地元の農家から購入しています。外出支援にも力を入れています。山や海、新しくできた道の駅などにも出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

来年3月に開通する北陸新幹線が事業所沿いにある国道8号線の陸橋をくぐると見え、散歩コースでの楽しみが新しく増えた環境にある。前回の外部評価を受け目標達成計画を作成し、3個の課題を実施達成している。今年1月から10月までに家族や本人の希望で3人の看取りを行っている。医師・訪問看護・家族の応援を得て実施でき職員の技術向上に努めていることが評価できる。食事でもユニット毎に献立し毎食手作りで利用者もできることを手伝いながら調理している。共用空間内に漂う料理が五感を刺激し食欲が増し、利用者はほぼ完食している。職員も同じものを食し利用者との会話が盛り上がっている。また職員は一日一笑を目標にあげ、全員に声掛け笑うことを大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やミーティングの場を利用し、法人の理念である「人権を守る」「自由な生活の実現」を全職員が共有している。グループホームにおいては「言葉使い」「情報共有」「入居者目線の対応」に留意している。	法人の理念に基づき事業所の理念を作成し「言葉遣い」「情報の共有」「目線の対応」を実践につなげている。事業所では「一日一笑」を掲げ毎日利用者と共に笑うことを大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の新型コロナウイルス感染防止のため、現在は地域との交流は中止している。	コロナ禍で交流ができなかったが、この秋より町内のお神輿が来所し地域住民とのふれあいできた。「あさくら祭り」も再開し開催間近で写真の展示や笑顔グランプリに参加しようと職員共に盛り上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との情報交換時などに、様々な認知症の症状や対応について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍において書面会議としていたが、令和5年10月より対面での開催を予定している。各構成員には資料や広報誌を送り、その中から頂いた意見をサービス向上に活かしている。	新体制の公民館館長や町内のサロンの代表等を含み地域住民が多い構成メンバーで10月より対面会議を開催する。参加の有無や意見を聞けるための工夫も行っている。全家族に議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアマネを中心に日頃から連絡や、わからないことはすぐに担当者に聞くよう努めている。	市とは制度的な事は法人が対応し、事故報告や監査の相談等を行っている。母体法人とは異なる地域包括支援センターが運営推進会議のメンバーで総合的に良好な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催すると同時に、研修などを行っている。身体拘束をしないことを前提としたケアを提供している。玄関の施錠は職員配置が手薄になる時間帯のみに限定している。	法人内で身体拘束適正委員会にリーダーが出席し事業所内でも身体拘束委員会を年4回開催している。現在は行動を妨げない事を課題にして取り組んでいる	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修などを通じて虐待防止の勉強を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について管理者や職員は研修の機会を持ち、また個々の必要性を関係者と話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約、改定時には丁寧な説明を行い、質疑応答の時間を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置している。家族との連絡は密にあり、都度意見や要望を伺っている。	今年度より面会が自由になったため、家族が来所している際に意見や要望を聞いている。家族会はあるが開催は未定である。広報誌は毎月発行しているが個人の状況は電話等で報告している。	面会や電話での意見を聞く機会はあるが、利用者や家族からは意見や要望・苦情が言い出し難い事を理解した上で、アンケート等の取組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニットミーティングを毎月実施している。また管理者がシフトに入ることによって職員とのコミュニケーションが深まり現場の意見や提案が自由にできる。法人会議での重要事項は職員に回覧している。	年2回の面談では「能力開発等自己申告書」を提出し異動などの願いも含めた本音を聞く機会がある。ミーティングや職員会議でのアイデアも運営に反映している。	管理者は職員の要望や意見を聞くように心掛けているが、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握できる工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施している。法人として安全衛生委員会を毎月開催し、各事業所からの意見や要望、問題点などを話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修を毎月1回行っている。施設外研修の情報を提供し、希望者が積極的に研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム連絡協議会に加盟している。オンラインでの研修などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の事前情報を参考にして、挨拶や笑顔での対応を行い、本人との会話を通して信頼関係を築き、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡時に、家族等に不安なことがないかを伺い、都度対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や電話連絡時に、必ずその時の本人の様子を伝え、家族等の意見を伺い、一番いいサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動など本人ができることはやって頂いている。「助かりました」「ありがとうございます」の言葉を忘れずに、共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、緊急時には電話にて些細なことでも報告、相談、確認させて頂いている。都度状況に応じた対応を共に試行錯誤している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の趣味や好きな食べ物を知り、自宅にいた時と同じように過ごせるよう努めている。	コロナ禍も緩和され、家族や友人の面会や法事、家族との外出もできるようになってきた。年賀状や遠方の孫よりの手紙等も届き、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションなどを通して職員が間に入り、利用者全員が笑顔になれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、必要に応じて相談や支援できるようフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話を通して希望や意向の把握に努めている。	必ず毎日笑ってもらえるように全員に声を掛け、表情を見ながら思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や個人ファイルを見たり、本人との会話を通して生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方やリズムをケース記録に残している。記録から状態を把握し、変化があれば職員間の申し送りなどで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、ユニットミーティングでの話し合いや担当職員からのモニタリングをもとに、本人や家族の思いを聞きながら介護計画を作成している。	ケース記録は项目的ごとに分けて記入し、介護計画の支援内容を意識した記録で、3か月毎のモニタリングに活かしている。6か月毎のカンファレンスや急変した際の見直しで、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記入している。申し送りノートを業務に入る前に確認し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、ユニットリーダー、各職員がコミュニケーションをしっかりと、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働はコロナ禍以降ほとんどできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等の協力にてかかりつけ医を受診して頂いている。希望者には訪問診療を定期的を受けて頂いている。	かかりつけ医の継続や往診の医師の選択もでき利用者は安心した医療を受けている。隣接した特別養護老人ホームの看護師も随時対応できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師は配置されていない。定期的に法人内別事業所から看護師がバイタル測定に來たり、必要に応じて相談や指示を仰ぐ医療連携体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報を渡す、電話で詳細を説明するなど、医療機関とは密に情報交換している。退院時にカンファレンスには必ず参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に重度化対応と看取りの指針を説明し同意を得ている。終末期には医師を含めた話し合いを家族と一緒に、事業所でできることを十分に説明している。	今年、家族と本人の希望を汲み取り医師および訪問看護の協力を得て、3人の看取りを行っている。看取り指針も作成し取組む姿勢が評価できる。医療を受ける必要がある利用者の場合は医師・家族と相談し病院や特別養護老人ホームに移行している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが、実践できる職員は限られている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。災害時に備えて食料や水などを備蓄している。	夜間想定を含み、消防署立ち合いで法人合同の避難訓練を実施している。消火器の点検や通報訓練も同時に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を使い、依頼形の声掛けを心がけている。介助時にはプライバシーを確保し人格や誇りを損ねないよう配慮している。	接遇研修や理念の「利用者の目線に合わせる」に沿った支援を行っている。個人情報の書類は収納スペースも多く目に触れない場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりや会話を通じて本人が思いや希望を表したり自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いやペースを大切に、無理やりに対応とならないよう注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服や着慣れた服、使い慣れたタンスを家族等に用意してもらい、その人らしい見だしなみやおしゃれができるようにしている。化粧品は使い慣れたものを継続して使用しており、無くなれば購入の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事作り、片付けなどを行っている。	ユニット毎に献立を工夫し、共用空間のキッチンで調理し、利用者は五感の刺激で食欲が増しほぼ完食している。職員も同じものを食べ利用者との話題に繋がる支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を残し、摂取量の変化をモニタリングしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応している。自歯がある方には歯磨き支援、義歯の方にはうがい支援や義歯洗浄を毎日提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や回数等を把握し適切な声掛けを行うことで自立できる支援に努めている。	退院後オムツの状態であった利用者の様子を把握し、支援しながら自立に成功した経験を活かし、排泄チェックとパターンを把握し全利用者が自立できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を取り入れるなど気をつける、きな粉牛乳を提供する、適切な運動をする、等個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週7日毎日沸かしており、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴してもらっている。拒否があったり特別な希望があれば無理強いをせず、個々に応じた対応をしている。	週2回を基準にいつでもゆっくり入浴できるよう支援している。準備から入浴まで1対1で対応し入浴剤やゆず湯・しょうぶ湯も楽しみになっている。入浴後の保湿液も利用者に合わせて使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、自由にいつでも眠れる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては全面的に職員が介助し、セッティングからの飲み込み確認まで管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人との会話から情報を引き出し、一人ひとりにあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出ドライブや戸外への散歩など外出支援を行なっている。	コロナ禍も緩和され天候や状況に合わせて、月1回の頻度で外出している。日常の散歩も環境的に可能で事業所に沿った8号線の陸橋をくぐると北陸新幹線や越美北線が見え、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に自動販売機が設置しており、希望があれば本人の小遣いからお金を出して購入できる。化粧品なども小遣いから購入できるが、金銭管理は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由にできるが、希望者はいない。携帯電話の保有者については充電方法やかけ方を教えたり適時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内の飾りつけには季節感のあるものを取り入れている。広い空間は木でできた衝立で仕切り落ち着けるようにしている。	木造の平屋建てで木のぬくもりがある。共用空間は広く観葉植物や手作りの作品が飾られ長ソファも置かれウッドデッキもある。廊下には数か所の三角コーナーに小さな生花と手作り物がレイアウトされており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の性格や他者との関係性を検討し座席の位置を決めている。両ユニットの扉は常に開放しており、行ったり来たりを自由にできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、写真立てなどの私物を置いてもらい、居心地よく過ごせるような環境を提供している。	窓も大きく、ベッド・洗面所・エアコン・空気清浄機が設置され、タンス・机・椅子・テレビ等が持ち込まれている。家族写真や手作り作品も置かれ個々に合った空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札がかかっている。浴場には「ゆ」の暖簾をかけるなど、場所がわかるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100280		
法人名	社会福祉法人 一乗谷友愛会		
事業所名	グループホームあさくら 北新町		
所在地	福井県福井市下六条町18字37番		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和5年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は入居者様の最大の楽しみです。当事業所では、介護職員が献立を考えます。近くのスーパーに買い物に出かけ新鮮な食材で毎食手作りにて調理を行っています。米は地元の農家から購入しています。外出支援にも力を入れています。山や海、新しくできた道の駅などにも出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南新町ユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が事務所に貼付しており、職員の意識が高まるような工夫がされている。	南新町ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域との交流は中止している。	南新町ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との情報交換時などに、様々な認知症の症状や対応について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在感染防止のため、全て書面会議としている。各構成員には資料や広報誌を送り、その中から頂いた意見をサービス向上に活かしている。	南新町ユニットと同様	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネを中心に日頃から連絡や、わからないことはすぐに担当者に聞くよう努めている。	南新町ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会や委員会で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者の行動を制限しないような声掛けに注意している。	南新町ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会で全職員が学習し、虐待防止に努めている。特にスピーチロックについては職員間で注意をしあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について管理者や職員は研修の機会を持ち、また個々の必要性を関係者と話し合い活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約、改定時には丁寧な説明を行い、質疑応答の時間を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置している。家族との連絡は密にあり、都度意見や要望を伺っている。	南新町ユニットと同様	南新町ユニットと同様
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニットミーティングを毎月実施している。また管理者がシフトに入ることによって職員とのコミュニケーションが深まり現場の意見や提案が自由にできる。法人会議での重要事項は職員に回覧している。	南新町ユニットと同様	南新町ユニットと同様
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施している。法人として安全衛生委員会を毎月開催し、各事業所からの意見や要望、問題点などを話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修を毎月1回行っている。施設外研修の情報を提供し、希望者が積極的に研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム連絡協議会に加盟している。コロナ禍のため対面での交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こまめな声かけを行い笑顔で対応、傾聴しながら本人との信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族に最近の様子を報告し何か心配なことがあればいつでも聞いて下さるよう声かけをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何か変わったことがあれば必ずご家族に電話連絡し、情報の共有を行い、都度意見を聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行ったうえで、これまでしてきたこと、得意だったことについて質問し、出来ることはやっていただく。その際、必ず感謝の気持ちをお伝えしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か小さなことでも変化があればご家族に報告、相談をしている。連絡を密にし、お互いに話しやすい関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでどう生きてきたかをしっかりアセスメントし、グループホームをご自宅の延長と感じてもらえるよう今までと同じように過ごして貰えるよう努めている。	南新町ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席などは気の合いそうな人同士を隣の席にし、コミュニケーションをとれるようにしている。また、職員も入りレクリエーション等行い全員が楽しく過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了にも、必要に応じて相談や支援できるようフォローし相談や支援に努めている。夫のサービス終了後に妻のサービス開始という具体例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いろんな場面において、その時の本人の思いや希望を会話から聞き取り、また表情から読み取り職員間で共有している。	南新町ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人台帳をしっかりと読み把握し、今後のその人らしい生き方のお手伝い出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り及びパソコンのケース記録を必ず確認し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、ご家族の思いを元に、今後どうしていくかを多職種の意見を聞きながらミーティングで介護計画を作成している。	南新町ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤後、業務に入る前に必ずパソコンのケース記録、申し送りの連絡ノートを確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、ユニットリーダー、各職員がコミュニケーションをしっかりと、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため、地域との交流は中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望や協力のもと、かかりつけ医へ定期受診をしている方、訪問診療を受けている方がいる。訪問診療は職員が対応しているので日常の細かい様子を報告出来ている。バイタル表を渡し状態を詳しく伝え、しっかり連携を取っている。	南新町ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的にバイタル測定に来てもらい、その際に相談等している。また、緊急時にも都度連絡をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には基本情報を渡す、電話で詳細を説明するなど、医療機関とは密に情報交換している。退院時にカンファレンスには必ず参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンスを行った上で家族の思いにも配慮し少しでも良い最期を迎えられるように職員全員で尽力している。	南新町ユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあり、AEDについても講習を受けいている。ただ、いざとなると全員が実践できるかどうか不安ではある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	南新町ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	怒らない、叱らない、馬鹿にしない、無視しない、試さない、笑顔で対応を心掛けている。人生の大先輩として敬語、依頼形で話すよう努めている。	南新町ユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく会話の時間を多く取り、受容傾聴を心掛けながら本人の思いをくみとり、一つでも多く希望が叶うよう、上司に相談したりミーティングで話し合いの場をもっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事、入浴などその人のペースに合わせ無理強いしないよう努めている。拒否が続いた場合は声掛けを工夫し対応している。一人ひとりが好きなように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や入浴前など、本人が嫌がらなければ一緒に衣類を選び、おしゃれして楽しい気持ちになってもらえるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何か食べたいものはあるか、好物は何か等を訊き、可能な場合はメニューに取り入れている。野菜の皮剥きなど手伝ってもらっている。提供時に献立を説明している。	南新町ユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分など摂取量を記録に残している。また、月末には体重測定を行い、一人一人の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方々に応じたケアをしている。歯ブラシがうまく使えない場合は口腔スポンジで口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方、トイレに行きたいと希望される方は例え立位保持が困難であっても、なるべくトイレで排泄が出来るよう介助を行っている。	南新町ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとったりきな粉牛乳を提供したり、と、個人にあった方法で排便コントロールを行っている。それでも未排便が続くようなら医師に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣から、入浴、着衣まで、全て一人の職員が介助し、慌てずゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	南新町ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、衣類、寝具調整を行い、気持ちよく休めるよう支援している。昼夜逆転にならない程度に好きな時間に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に変更があった場合は、薬の名前とそれが何の薬なのかを申し送り、把握できるようにしている。不明なことは医師や薬剤師に質問している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関りや記録、台帳からこのアクティビティを探り、少しでも実践し楽しんでもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	未だコロナの影響で思うような外出は出来ていないが、ドライブ外出などで気分転換をはかったり、行事の時には特別なお菓子や料理を食べ、楽しんでもらえるよう努めている。	南新町ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	限られた金額の中で自動販売機で好きな飲み物を購入している。金銭管理が難しく施設で預かりの方は本人訴え時に手渡して、職員見守りのもと購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接自由に電話を掛けることは困難だが、家族の了承を得た上で希望があれば本人と直接電話してもらっている。ご家族の同意の元、携帯電話を所持し、自由に電話をかけている方もおられる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節やイベントに合わせて飾りつけなど変更し、室内にいても春夏秋冬を感じてもらえるよう努めている。	南新町ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ観賞を楽しむ人。会話を楽しむ人、それぞれの気配を聞きながら居眠りする人。皆が自由に過ごせるよう、常にソファなどの家具の配置には気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用、または愛着のあるものを自由に持って来てもらい、自宅にいる時と同じような居心地のいい空間になるよう努めている。	南新町ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴場などドアが同じように見えてわかりにくいとの声がある。慣れるまで場所をイラスト表示するなど工夫した。		